

摂食嚥下リハビリテーション学 ・実習

《担当者名》 飯田 貴俊

【概要】

摂食嚥下障害のリハビリテーションにおける検査法、評価、治療法を学び、リハビリテーション診療を実施するための理論的基盤を確立する。また、超高齢社会における日本の低栄養の現状、摂食嚥下障害との関連、摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係についての理解を深める。

【学修目標】

1. 摂食嚥下リハビリテーションにおける検査法を説明できる。
2. 摂食嚥下リハビリテーションにおけるスクリーニング法を感度と特異度の点からその評価と限界を説明できる。
3. 摂食嚥下リハビリテーションにおける治療法を説明できる。
4. 摂食嚥下障害と、低栄養、フレイル、サルコペニアについて説明できる。
5. 摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎との関係、介入法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	摂食嚥下障害について	摂食嚥下障害患者の特徴や、原因疾患、社会的背景について学ぶ。	飯田 貴俊
2	摂食嚥下障害患者のピックアップ 摂食嚥下障害のスクリーニング検査	摂食嚥下障害患者のピックアップ法を学ぶ。 摂食嚥下障害のスクリーニング検査について学ぶ。 スクリーニング検査の感度・特異度について理解する。	飯田 貴俊
3	摂食嚥下障害の検査法	摂食嚥下障害の精密検査（嚥下造影検査;VF、嚥下内視鏡検査;VE）について学ぶ。	飯田 貴俊
4	摂食嚥下障害への対応（1）	1) 栄養管理 2) 口腔ケア 3) 摂食嚥下リハビリテーションの概要	飯田 貴俊
5	摂食嚥下障害への対応（2）	1) 代償的アプローチ 2) 治療的アプローチ 3) 環境改善的アプローチ 4) 心理的アプローチ	飯田 貴俊

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席状況・口頭試問・レポート

【教科書】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【備考】

外来ならびに院外においての実習を含む。

【学修の準備】

提示した到達目標に合わせて、関連資料の収集・文献購読をしておくこと。

【実務経験】

歯科医師